

□ 対談 □

# 神戸とミュージカル

高木史朗 ★宝塚歌劇団演出家  
永六輔 ★放送作家



「ミュージカルは文句なしに楽しいものなんや」と高木さん

「秋に神戸の百人部屋・新川を舞台にミュージカルをつくろうと想をねっています」と永さん

治安維持に「歌」を利用した伊藤博文

高木 どうもしばらくでした。宝塚はどうですか。

永 アイスミマセン。少女歌劇ってのにまだまだ馴染めないんです(笑) 今日もずいぶん前の方でみたんだけど、なんだか照れくさくて(笑) 舞台の方あんまりみないで、シヨウ・ナンバーになるとホツとして顔を上げるってぐあいなんです。大路三千緒さん何だかジツと睨んでた、ちつとも舞台みてくれないじゃないのって顔して

(爆笑)

高木 いやア、楽屋じゃ、永さんはたいへんな人気ですよ。衣裳の女の子なんか、永さんの作品も素適だけど、永さん自身がチャームिंगな人なんだなんて、ワイワイ話してるんですよ。(笑)  
永 知らないからいえるんですよ(笑)。東京のSKDもちよいちよいみるんですが、やはり生理的に好きになれないところがあるんです。

去年NKDの演出した時には、あんまりてこずっちゃったので、死んじやおうかと思った(爆笑)

だってね、僕は口が悪くって何でもドンソク言っちゃう方でしょ、だから気に入らないと「辞めちゃえ」って怒鳴る、するとほんとにさっさと帰るようになる(笑)これには困ってしまっただけで帰って「どうもすみません。帰らないで下さい」(笑)あの時はほんとに弱っちゃいましたよ。扱いなれない人達だったもんで。

ところで今日の「港に浮いた青いトランク」はじめ高木さんが宝塚で新川を舞台にしたものを演るって聞いたときドキンとしちゃって、ああさきを越されちゃったか、なんて思って、ちよっとみるのがこわかったんですよ(笑)

高木 そうですか。こっちでもネ永さんの関西留学は早くから知れわたって、何かしら永さんが

新川のこと調べてるらしいよって神戸じゃ、みんな知ってるの。

永 秋に労音でミュージカルを演るんですが、新川をその舞台にしようと思っただけでこちらへ来たわけなんです。でも僕の方は新川部落になるところまでのお話なんです。高木さんとは少し内容がちがってくるんです。とほけて知らん顔して調べてたんだけども

(笑)

でも去年の夏から秋にかけてはずいぶん歩きましたよ。いろんなことが分かってきましたね、新川部落の前身というのかな、昔の福原のそばに百人部屋ってあって、貧民窟っていうか貧民収容施設のようなものがあった、特別な世界をつくり出してましたね。そこを舞台にして書いたら面白いだろう



ってずいぶん前から考えてたんです。

高木 いやア、そうですか。その百人部屋っていうのはいつ頃のことですか。

永 そういう呼び名がついたのは明治元年ですが、ものがたりは幕末から明治にかけてのことなんです。神戸を開港することになって労働力が必要になってくる、それを知った貧民が続々と神戸の街に流れこんで来てそうだった人々でふくれ上ってしまったんです。当時それを28才の伊藤博文が関の浦という相撲とりで命じて収容施設を作る、これが百人部屋です。昼間働かせて、夜は酒と歌という生活で、伊藤博文の政策としては治安維持に「歌」のために利用したと考えられます。だからあそこじや、日本国中の民謡が歌われたと考えたいんです。

高木 宝塚じゃ、そこまで深くつっこんで演れませんよ。

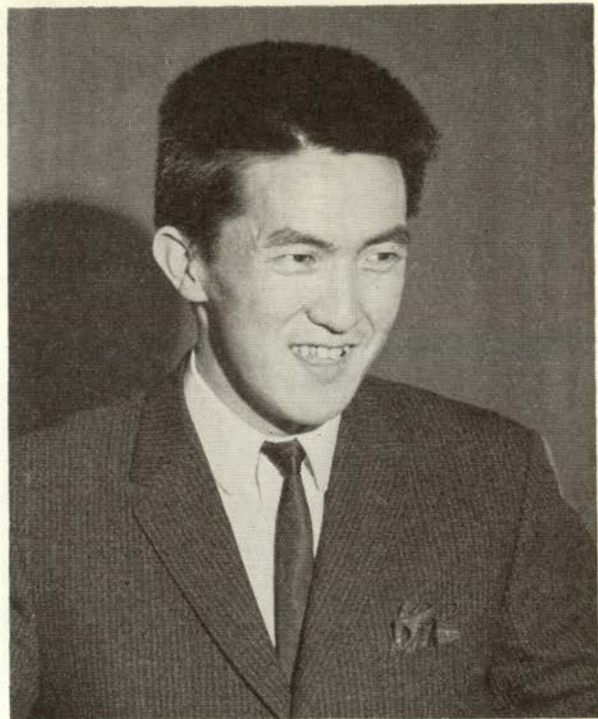
永 それから新川は部落っていつても一般のいわゆる部落とはちがってあらゆる世界でつまはじきされ仲間はずれにされた人々の寄り集りってことなんです。だから水平社関係の運動よりもむしろ、賀川豊彦のキリスト教の方がパツと受け入れられてしまってますね。

高木 新川も戦後あんな風な広い道路ができてしまっただけ、昔の面影がうすいですねえ。

永 しかし、今日も舞台でバラケツなんて言葉が飛び出してきて(笑)とっても懐しかったなア。

高木 神戸の老人みたいなことをいう(笑)

永 若い女性とはつきあってない



証拠です(笑)

路線のついた現代劇の  
タカラヅカミュージカル

高木 今度の舞台で麻葉がでて来ますでしょ。あれ最初ずいぶん迷ったんですよ、麻葉なんていうと、宝塚の「清く正しく」のモットーに反するのじゃないかって思ってたね(笑)それで寶石の密輸にしようかというたら神戸新聞の畑専一郎なんかが「神戸でいうたら何が何でも麻葉を出ささないかん」いうんですよ(笑)

まあ、従来の宝塚ミュージカルといえますと、永さんが『夢であいましよう』で演られたこんな長いつけまつげ(爆笑)とパリ情緒が主だったんですが……。

永 『夢あい』ご覧になったんで

すか。あれは高木さんが見てないように祈ろうねって言ってたんですよ、とつても気にしてたの(笑)渥美清がノレンをあげるようにまつ毛を手でもちあげて(笑)お、パリよ!(笑)

高木 楽屋じゃ、あのまつげでキヤアキヤア言っていましたよ。僕もあれには笑ったねエ(笑)そんなわけで宝塚じゃ現代劇はタブーだったのが、今度で3本目を迎えたわけなんです。最初が「東京の青い空」次が「虹のオルゴール工場」そして今度「港に浮いた青いトラंक」なんです。やっとなんかという感じですね。男性を舞台上に上げるという問題なんかいろいろあったんですが、結局、舞台があったり観客があるっていうことになり

はないって割切っちゃってしまいたね。だからようやく見当がついて来たように思います。今度の舞台の汚れ役でも、みんなはりきって演ってますよ。

永 たしかに、高木さんのそういう割り切り方でものが舞台の人達にも十分浸透してきたって感じを受けましたね。同じパタ屋でもハリキッテ汚れてる人はみてる人がいいけど、まだ少し迷ってる人がいたりするとここちらが嫌になっちゃういますからね。

あの、何々するのだ、っていうのと、せねばならぬ、って歌なかなかないですね、とつても感心しちゃった。ああ、またひとついいものが減っちゃった、チキシヨウチキシヨウって心の中で叫んでたんですよ(笑)この間もネ、クラシックのリサイタルで大中めぐみさんの作曲による漢文調の歌を聞いて同じこと思ったんです。しかしらずんば、って歌なんだけど、ずんば、ずんば、ってとつても口調がよくってね、こういうのも新しい行き方ですよ。僕はいいものを他人が先に取っちゃうのが口惜しくって口惜しくって(笑)

すばらしい詩ができれば  
ぜったいに人に渡さない

高木 僕は永さんのピリツとした新鮮な詩にいつも感心してるんですよ。あの、遠くへ行きたい、なんかいいですねエ。一べんたづねよう思ってたんですけど、ああいういいキヤッチフレーズ一体どうして見つけるの。僕なんかいつも作詩で苦勞ばっかりしてるんですよ。永 僕は作詩っていつて、ちゃんど詩を書いたことないんですよ。い

つも中村八大がやってくれるんで僕ら書いた散文を彼が編集作詩してくるんで。

高木 おや、そうですか。いいなあ。僕らの場合、演出も作詩も何もかもやらないかんので、たいけんなんですよ。僕がいつしようけんめい書いたものでも、作曲の中元君がネ、こんな歌になりません言うてみんなカットしてしまうなんてことがよくあるんですよ。それでいつもケンカです。(笑)

永 僕は自他共に許すおしゃべりだから(笑)、若い女の子でもお年寄りでも、相手としゃべっててわれながらふといいことしゃべってるなあって思うと、何でもメモして取っとくんです。そして、自分でもスゴクいい詩だなって気に入った詩はぜったい誰にも渡しませんね。大切にしまっというて、活字にして小さな本にする(笑)すばらしい詩にはそれ自体に美しいメロディが想像できるもんだと思うんですよ。だからくだらないメロディなんか汚されてたまるかなんて思っ。(爆笑)

高木 永さんね、詩つくってて、いい言葉が見つかる、これはいい歌になるぞって直感することあります。

永 いえ、そういうことはせんぜん。僕ネ、割り切っちゃってるんですよ。つまらない詩でもいい曲がつけば、すばらしい歌になっちゃうし、逆にいくらい詩でもまづい曲がつけばダメなんだって。

高木 そうかなア。僕はやつぱりいい言葉には必ずいい曲もつくと思うね。だからすばらしい言葉を見つけたことが第一やと思っってますよ。

永 八大とは早稲田の学生の頃からのつきあいですが割合うまく行ってる方でしょね。まるで夫婦のようなもんですから、どうしても離婚しなればってとこまではやっつゆこうと思っってます(笑)たしかに相性というものは、作詩者と作曲家の間でもありますね、芥川也寸志さんと組んだことがあるんですけど、君のはメロディのつく詩じゃないって言われちゃって、とっつも悲しかった(笑)それで、話の筋は僕のまま、詩は岩谷時子さんと替っちゃいました。僕の詩を好きだって言っ下さる人もいる反面、ぜんぜん受けつけられない人もいるんだなっと思いましたよ。

坂本九に読ませたい  
芸能百年史

高木 永さん、またたいへんなことはじめたのね。朝日新聞の芸能百年史。関西のことが中心になってるんで、僕らにはうれしいね。

永 最初、秋の舞台を演るためにいろいろ調べてたら、何だか次から次へと興味がわいてきて広く浅くということにかけては負けませんから、すいぶん広がっちゃって。それで朝日新聞の方で、そこまで調べてるんなら出しなさいってことで、ああいう形になってしまったんです。

高木 あれだけ調べるの、たいへんでしょ。日本のほとんどの芸能が関西から興ってるということ根本的にはどういうことなんですか。

永 結局、大阪の町にはサムライという非人間的な馬鹿の数が少なかったからでしょうね。(笑)漫

才、落語、歌舞伎、新国劇、新派、みんな関西が発祥地になってますものね。まあ、大道芸人や浪花節語り、歌舞伎、能、狂言にいたるまで、あらゆる芸能を一度ズラリと並べてみて、大道芸人も団十郎も同じ次元で眺めてみたらわけてです。僕達の前の時代の人々が、一体どんな風に音楽やお芝居を扱ってきて、また大衆はそれをどのように受けとめてきたかということを知りたいんです。宝塚なら宝塚の果してきた役割を芸能史の中から抽出してみて、それをいただきたいんです。その上で、今後、自分達が何を創り出したらいいかを考えてみたいと思っ。

高木 なるほどね。歴史を逆のほうで考えるということ、こりやあなかなか意義深い仕事ですね。

永 実際にテレビなんかで、どんなくらで人が見ちゃうんですよ(笑)はつきり言っ、ぶざけようが、セリフ忘ようが、何千万の目は見てるんですよ。こんな馬鹿な話ってないと思っましたね。とっつもガマンできない。でも調べてばかりになりませんで、だから僕は故郷であるテレビへ帰るつもりですけど、その時、何かをおみやげに持って帰りたいんです。

高木 それにしても、今の若い人は古典を知らなすぎますね。うちの学校でもミスタングット、橋薫久松一世を知らない者がほとんどですよ。ミス・タンゲットだと思っ。(笑)

永 そのとおりですね。今の若い人達は、読んだり、見たりするものがあまりにも多すぎるんです。



春。おしゃべりするとき。  
お買物の帰り道、  
いこいの場所に、  
静かなKEIの部屋  
へお立寄りください

服飾 **KEI** の店

生田区三宮町3丁目57  
大丸前服部宝生堂眼鏡店2階  
TEL 33 7 5 5 0

メガネをかけたとき



女性が若くなる！  
美しさが際立ってくる！  
課長さんは部長に、部長さんは  
重役にみられる！  
どことなく奥床しい人柄を  
感じさせる！  
そういう メガネ 専門

**モリカワ**

三宮・京町筋（センター街上る）  
神戸クーポン歓迎・TEL 33・7134



イタリア料理

イタリア

生田新道 TEL 33 0376

日曜日から土曜日まで

毎日献立が変わります  
バラエティに富んだ  
たのしいお食事  
杉のサービスランチ

グリル喫茶



150円 11:00am - 20:00pm



元町通 3本高砂屋 2階 TEL 33 7368

だからいいものにふれる機会が少い。若いタレントに聞いてもあの亡くなった花柳章太郎さんの名前だけは知っても舞台はみてませんからね。あの芸能史も、坂本九で代表される日本の若いタレント達に読ませたいと思って書いてるんです。他の誰よりも彼らに教えこんで、引っ張っていくのは僕達だと思っただけです。宝塚の場合、初めっからグループで結成されていきますけど、僕らの場合、いざ僕が「集まれ！」って声かけたとき、さっさと集まってくれる、そういうグループが欲しいですね。今の段階じゃ、一人一人をつかまえておくのに苦労しています。

### 神戸でランデブーできたら 世界一幸せな恋人達です

高木 僕らの場合、宝塚ってことで、いろいろ制約されることもありますがね。

それにしても、神戸もずいぶん歩かれたでしょうね。

永 ええ僕はトチカン（土地勘）の六って言われて、初めての街でもたいてい見当つけて歩いてちゃうんです。もつとも時々、トがはずれちゃったりしてネ（爆笑）

高木 神戸の町ってどうですか、うまいものの店も大分覚えられましたか。

永 ええ、おかげ様で、いろいろお世話して下さる方がありましてとても気に入っちゃって、今に年とつたら家族全部で引越して来ようなんて真剣に考えてます。ずいぶん日本中旅行して歩いたんですけど、年とつたら住んでみたいなんて考えたのは神戸だけです。山のある町ってステキだな。

僕がまだ独身で、神戸っ子の恋人と神戸でランデブーできたらって考えるのと、結婚しての口惜しくって（爆笑）山と海に囲まれて、こんなにヴァラエティに富んだ場所はランデブーには最高の場所ですよ。（笑）

高木 あの山の手のあたりは一等地ですね、冬はあたたかいし、夏涼しい所で、食べものもいいときて。僕らには戦前の神戸の方がやはり好きですがね。

永 布引の滝の上の方の山へ毎朝登る会ってのがあるでしょ、僕ときどき、どうしたわけか6時頃に起きて、おつきあいするんですよあの登山会ってのは感激しちゃってるんです。

高木 昔から神戸では、鷹取山とか修法ヶ原を裏山言うて、朝早く登るもんですよ。頂上へ行くとカイドにハンコをつけてもろてね、何百回、何千回という風に。

永 古本屋にも強くなりましたよセンター街から元町の奥の方までずいぶん歩きましたからねエ。東京の神田なんかに比べてびっくりするほど関西は安いですね。でも文献っていうのは実際あてになんないもんですよ。一冊だけ読んでるぶんにはいいんだけど、5、6冊も見ると、内容がずいぶんちがって来て、どれが正しいのかわらない（笑）

それで、いろんな人に会ったりもするんですが、年寄りの漫才師なんか、話してる内に記憶がゴチャゴチャになって日清戦争と日露戦争が入れ替ってたりしてましてネ。（笑）

高木 古本というのと、僕ネ、「曾我家全集」が欲しくて欲しくて、ずいぶん探しまわったけどない

んですよ。京都の西村という演劇書専門の店へ行っても「アチャコさんにも伴淳三さんにも頼まれてるんですが」って具合でネ。その内に誰かがこのことを聞いて、週間新潮の掲示板に載せてくれたんですよ。そしたらちやうど持つてる人がいて全部ゆずってくれましたね、うれしかったね、あの時は。

永 その本、別珍の表紙で皮のついでる？

高木 そうそう、それ。

### 拍手の短かい 日本のお客さん

永 僕とっても疑問に思っただんですが、宝塚の劇場の入口に「舞台へのかけ声はやめて下さい」って貼ってあるでしょ。

高木 ええ。戦前はうちには、キヤアキヤア騒いでかけ声を飛ばしたり、テープを投げたりして、たいへんにぎやかだったんですけどね。芝居の場合、じゃまになるってことで。しかしお客さんと舞台の交流という意味では、禁止するのもどうかと思いますね。

永 僕なんか、エキサイトすると大いに声はり上げた方だから（笑）一応禁止されていても、熱心なファンは遠慮勝ちに「誰々さん」と叫ぶでしょ、それを側にいる人達がシラジラしい顔で見てる。そんな情景にぶつかると、ゾッとしちゃいます。かけ声がある人にはそれなりの事情があるんですよ。そのかけ声をかける時と

いうものをちゃんと心得ている観客は、芝居の場合でも何もジャマではないと思います。

ドサ廻りのほんとに安い剣劇の一座とか児童劇団の木馬座なんたのをみにいくと、あの興奮のうずこそあたりまえじゃないかと思っちゃいます。笑う場面では思う存分笑って、泣く場面にはちやんと泣く。そして悪者が出てきたりするとみんなして「やっつけろオーやっつけろオー」(笑) そりゃあものすごい声援ですよ。これでもくちやあネ。「何々してはいけません」なんて言われると勇気を出して笑ったり泣いたり出来なくなりますね。僕、以前に「ウエストサイド・ストーリー」みに行った時「アイ・フリール・プリティ」って歌う場面で、そんな歌うたっちゃいけない、おまえはシンガーじゃない。ここにはシンガーはいないっていうでしょ、そしたらその縫い娘が「ここにいろ」って指したのがシンガー、ミシンなんで僕ケタケタ笑っちゃった。そしたら誰も笑ってないの、みんなすぐくつめたアイ顔して僕を見てる。だからあれからウツカリここで笑うと馬鹿にされるんじゃないかなんて先に考えてしまおうんです(笑)

その点、地方巡業でみた橋幸夫のシヨウの演出は成功でしたよ。「プレセントタイム」っていうのをファンのために作って、その時間がかかるまで、ファンの気持をぐつと押さえてくんですよね。そして司会者が「いよいよお待ちかね、皆さんのプレゼント・タイムですよ。一言と、さあものすごいんですよ。一人一人舞台上って来て握手したり何が入ってんのか分

らないけどきれいな包みを渡したり果ては抱きついたり、ワアワアキヤアキヤア、またそこが結構そのシヨウのやま場になっちゃってるんですよ、こりゃいいなって思いました。

高木 いろいろずいぶん勉強になることばかりで。私なんか最近の若い人の気持が分りませんね、見当がつかんのですよ。この間もネ、牧美佐緒といった中堅クラスの人達とデイズニーの映画みに行っただんですがね。二本立てで僕なんか「ウイーン」の森の物語」にすつかり感動したんだけど、彼女達にはもう一本の「三匹荒野をゆく」の方が面白かったらしく、犬の話ばかりしてる(笑) おや、僕はやっぱり戦前派の感覚なんだなと思って家に帰って中学生の娘に聞いてみると、今や学校じゃ「ウイーン」でもちつきりだというんですよ。「三匹」の方はって言うのと「あれは小学生向きよ」って(笑) そういう彼女の読んでいる本が、「学問のすすめ」だったりして、ほんとにさっぱり分らないですね。一口に若い人って言うてもゼネレーションのちがいでどうもちがうんですからね。

永 僕らは職業柄、一体こういう年代の若い人達は何を欲しているのかってことに常にふれてなくちゃならないんですがね。だから極力若い人たちにつきあひもするし、遊びもするんだけど、つきあえなつきあうほど「おれもじじいになつたな」としか思えない(笑)

高木 内田吐夢監督の「飢餓海峡」をみに行った時にも感じましたね。観客はほとんど同時上映の「あの雲に歌おう」の方をみに来

## ピンク・コーナー



ジンマシンが出そうになるコトバがあります。もちろん十人十色といいますが、人によって症状は違うでしょうが、当方と致しましては、一番敏感にこたえるのが例の「ダーリン」というやつ。お二人つきのときに、どんな呼び方をされようが、こちらには聞こえませんが、人前でヌケヌケと。うちのダーリンは……などとやられると、もう背中の方からムズムズとしてきちゃって、手のつけようがない。困っていたら、伴淳さんがいい特効薬を教えてくださいました。いわく、なにがダラリンだいい? おかげで胸がスツツとしました。

同じ男性ながらジンマシンを起こさせるコトバに「オッパイ」というのがある。恥も外聞もない初老組みのワイダンで、こんなコトバがとび出してくるのなら、まだ聞き捨てにもできましようが、都会的センスを売り物のコント作家などが平気で「オッパイ」といったコトバを使っています。リユウとした身なりや、高価なパイプもこれでは台なし。趣味の悪さをバクこれたようなもので……。

だいたい、オッパイなんて大の男がいうことではない。それではどうなのか? だって? 日本には乳房というりっぱな表現があります。オッパイは赤ちゃんのもの、乳房こそ紳士の愛するもの。(T)





### ピンク・コーナー

「自動車の構造は簡精に組み合わされた数千個の部分品からなっており、ちよほどそれぞれの機能をもち数多くの細胞から組織された人の身体に比せられる」これは百科事典にある「自動車」の項の説明です。えらい学者のおっしゃることだから間違いはありません。ちょっと考えただけでも、人間にもクルマにも「排気装置」はちゃんとついています。

世のけしからぬ男性どもは、ご婦人のいない会合などではすぐ次のような話をする。「彼女は身体の手入れだけは熱心にするんだよ。ところがクルマの手入れは全然しないんだよ。」すると一人が「同じ乗りものなのにねえ。」こうなるとクルマは人間というより女性に似ているという結論になります。道理で男がクルマを買う場合「乗り心地はどうだ」ということばかり聞くとした。

また新車を買ったら、それを花嫁にたとえて「はじめの取り扱いはかんで運命が決まる」という哲学をいう人がいる。また日ごろは女性に頭の上がらない男性に限って、自動車レースのファンになりやすいという調査もあります。それ、ブレーキに思い切り悲鳴を上げさせろ、大地を思いきり蹴とばせ、エンジンをつるにぶんまわせ、というの、そんな風に女性を操縦してみたい願望かな。(T)

ん完成されたミュージカルが入ってくるのはいいけど、ああいうのをみて、あれをすぐ日本のオペラにしようとするのは無理です。アメリカのミュージカルだってあそこまでくるのにいろいろ過程があったんですからね。

しかし、日本じゃ、ミュージカルもこれからどんどんいろんな種類のものが生まれてこなきゃあうそですよ。でも劇場が少いとか自由に使えないってことが問題にはなりません。それに、ある種の権力が僕らを自由にさせてくれない、思い通りに動けないってこともありますね。

永 でも、映画の世界でも羽仁進さんだとか勅使河原宏さんがやっている新しい仕事を見てると、僕達にもやってみてできないことはないと思えるんですよ。そういう権力みたいなものを吹っ飛ばすぐらい、いいものを創りたいな。そして同じミュージカルでも、ちがったスタッフ、キャストで売れるようになれば、理想的なんですけどね。

高木 宝塚でも、いつもいつも内部の者がかりでやるよりは、外部の人のフレッシュな感覚でやってみると、又ちがった味が出せるんじゃないかというアドバイスしてくれた人があるんですけどね、永さんの書いたものを僕が演出するってとはどうでしょうかね。

永 僕も書く方だけだったからお手伝いさせてもらいたいですね。ただし演出の方はNKDでもうコリチャッタから、今度は詩だけつけて、皆に嫌われずにするようにしたいです。(爆笑)

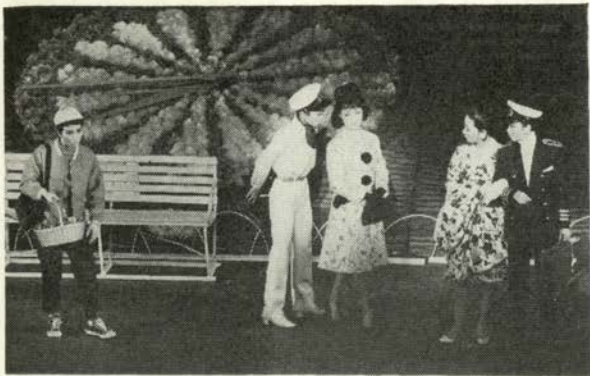
てるんですよ。つまり今売り出しの西郷輝彦をね。だから僕らはどうするかすると「飢餓海峡」の方を作ったがるがお客は別のものを欲しがってるんじゃないかということをつくづく考えましたよ。

永 さっきのかけ声のことに戻りますが、日本には大団拍手の習慣ってのは明治の中頃までなかったと思うんです。ヤンヤヤンヤと膝をたたく、とか、板べりたいたいで喜んだり……てことはありました(笑)だからこそ手に汗にぎるなんて表現もあるしね。日本の観客の拍手のマナーってのはまだまだ本格的でなくって、外国からやって来たウエストサイドの連中なんか、何が一番疲れるかっていうと、拍手が少なくて短いことだって言ってますね。ひとつの歌が終わると向うじゃ、パアーツと拍手が来れば止まらな。そして舞台の彼らはゆっくり呼吸をととのえながらおじぎをする。そして次のシーンに入っていくんですが、日本じゃ、拍手の時間が短いから、呼吸を十分ととのえる間がない、みんなハアハア言ってます(爆笑)

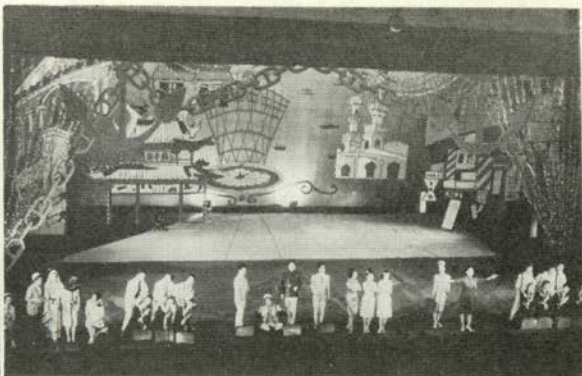
### ミュージカルは文句なしに楽しいものなんです

高木 なるほどね、それにミュージカルっていうものは、もって文句なしに楽しいもんだってことをまず浸透させる必要があるのところがいます。大衆芸能ですからね。よくミュージカルに思想がどうのこうの言ってる人がありますが、ああいうのは反対だね。永 ええ、ぼくもおかしいと思いますね。

高木 ただ、アメリカからとんと



花時計まえでの出会い。左より次郎（汀夏子）船員菅原（真帆しぶき）  
歌手須磨（加茂さくら）友人平野（黒木ひかる）楠（松乃みどり）



ポートタワー・花時計・回教寺院そして港の船を背景に軽快な序幕。神戸  
っ子とエトランゼが神戸の街を讃歌する。

●神戸を舞台にしたタカラヅカミュージカル

# 港にういた

# 青いトランク

作・演出 高木史朗

ほろよい気嫌で  
歌うカンカン虫

作詞 高木史朗  
作曲 中元清純

私は神戸の街が好きなんだ  
私は神戸の街が好きなんだ  
山には若い夢があふれて  
海には虹の歌が渦まくよ  
波止場を口笛吹きつつゆけば  
ポートタワーが  
明るくほほえむよ

モヤに包まれた神戸港の波止場の朝。船員、水夫、沖仲仕、商船大学生、港の娘、エトランゼなどが、私は神戸の町が好きなんだと軽ろやかなリズムで歌い踊って幕があがる。

私は神戸の街が好きなんだ  
私は神戸の街が好きなんだ  
山の手ゆけば  
異人屋敷の  
窓辺にたたくむいन्दの哲学者  
場末のネオンの飲み屋のあたり

神戸っ子になじみ深い宝塚歌劇団が、2月公演で神戸を舞台にしたミュージカルを上演して話題を呼んだ。作者は、神戸で生まれ神戸で育った高木史朗氏。いつか神戸を舞台にしてみたいという夢が実現したもので、「東京の空の下」-虹のオルゴール工場」につぐ現

代版ミュージカル。  
一つの青いトランクを中心に、



百万弗夜景のみえる山の手にあるナイトクラブの場面。中国娘の姉妹の登場がエキゾチック神戸のムードをたかめる。



新川のバタヤ部落の場面。中央神父（上月晃）をかこんでのコーラス。左は松乃みどり右は真帆しづき

神戸の港、市役所に見える花時計新川部落、山手の高級アパート、異人館の並ぶ北野町、百万ドル夜景の見えるナイトクラブなど身近かな場面が次々とくり展げられる。ストーリーは、香港から航海を終えて港に降り立った船員楠（松乃みどり）と菅原（真帆しづき）の二人が花時計前で歌手の須磨（加茂さくら）と会う。青いトランクを持った彼女は「今日の正午に花時計前でこのトランクを渡してくれ」と香港の人に頼まれたという。そこへ須磨の友達平野（黒木ひかる）が現われ、神戸の街を案内しようとして誘って、四人で出かけることになり、鞆を三宮駅に預ける。その後へ宇治川（牧美佐緒）が登場。彼は父を失い、母ミツ（大路三千緒）は新川部落でバタヤをしている。貧乏ぐらしに嫌気がさした彼は船員に憧れて家を飛び出している。そこへチンピラ仲間のジョージが現われ青いトランクをだましとって来たという。花売りをして学校に通う弟の次郎（汀夏子）の提案で兄はトランクを持ち主に返すようにすすめる。

一転して、新川部落。バラック小屋では沖仲仕の宗やん（清川はやみ）や神父（上月晃）バタヤのミツたちが貧しいながら楽しく働いている。兄一郎が久しぶりに家へ帰るが母は会わない。彼は偶然出会った須磨にトランクを返そうとするが、黒めがねの男に奪い去られる。

山手の高級アパートに住む荒田未亡人（淡路通子）の一室に舞台は移り、黒めがねの男がここへ逃げ込む。フクの孫娘高校生ユリ（日夏悠理）を連れ帰って来る

が、修学旅行中で青いトランクを持っていて。ここでユリは男のトランクを間違えて神戸見物の観光バスに乗ってしまうのである。ユリを追う男、平野、須磨、楠、菅原そしてナイトクラブの女、etc...。ついに青いトランクが黒めがねの男に奪い去られようとしたとき警官が大去現われて密輸団一味を捕える。黒めがねの男は平野に「裏切者！」と叫ぶが、ナゾの女平野は麻薬取締の婦人警官だった。

宇治川一郎は楠の紹介で待望の船員となり、外国航路に乗り込む。メリケン波止場のランチでゆく一郎を見送る皆。青いトランク事件も解決してメデタシ、メデタシという筋書。

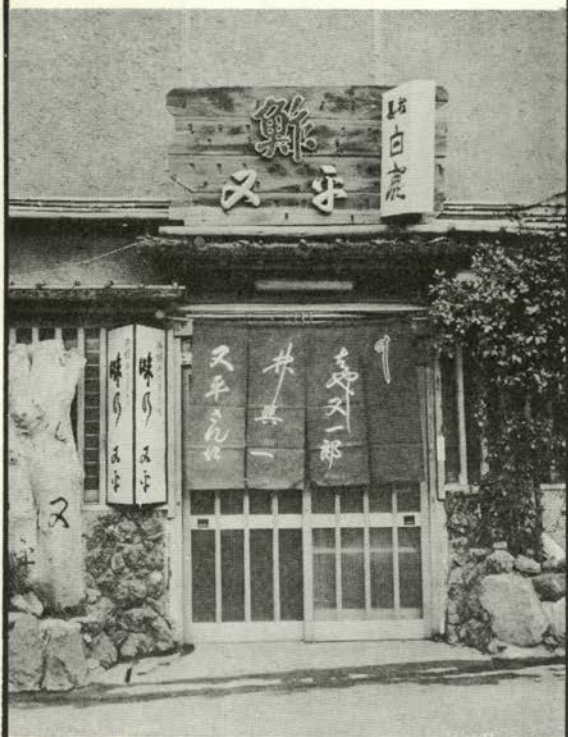
× × ×

神戸がミュージカルの舞台になるのは初めてである。歌、踊り、芝居の三拍子の、麗しき乙女達で描きだされる神戸はなかなか楽しい。花売りをバイトにする弟、ハーフ（混血児）のジョージ、バタヤのおばちゃん達、沖仲仕の宗やんなどに、神戸独特の人間臭が生き生きと演じられていることは、清く、美しいタカラヅカジュエンスの魅力とは違った、バイタリテイのある美しさが新鮮だ。「ジェントルマン神戸」と「バラケツ神戸」の両面を巧みに織りなしたところは、神戸っ子作者の面目躍如である。

（東京公演は5月）

目下、舶来ミュージカルの上演で、その消化に懸命なミュージカル界のなかで、タカラヅカミュージカルが、日本の、しかも地方都市をテーマにしたミュージカルととり組んで、新しい路線を敷き始めていることに拍手を贈りたい。

神戸っ子の味覚に  
ぴったり、又平の早馴れ鮓



神戸三宮生田ノ社ノ西

鮓の又平

電話・三の宮 ㊿ 0935

神戸肉の鉄板グリル

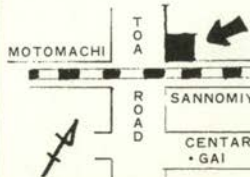
バター焼・鉄板焼

定食・¥650ヨリ



Grill & Tea Room  
バター焼  
喫茶 candle

きゃんどる



☎ ㊿ 9991  
9508

TOA・ROAD  
SANNOMIYA

AM11:00~AM1:00



# 神戸を楽しむ 私のコース ⑧

原口 ちから

(医師)

にくねって海岸通へ出る。

そこで私は、生臭い潮風を鎮静剤のように吸込み、最初の煙草に火をつける。

大小の汽笛、スクリューに泡立つ波、ドスのきいた仲仕の会話。ボンボン。どれも、これもみな、不協和音だ。もう、私の思考

ものだ。私は私を蘇生さす。

しかし、私は再び、ここで身を繻がえし、公衆便所横を抜け、忍者と化する。

無気味な倉庫、苦斗した船底の一家団らんよ、美談製造者のホクソ笑みを拒絶せよ。漂う芥と油とに落した私の影、私の故郷がそこにあったのだ。

釣りドックの鉄骨が真っ赤な落陽に浮き彫りにされる頃、私は蘇生した自分と、その影とに対話しなければならなかった。

どこをどう通ったのか、ほんとうに、どこをどう通り抜けたのかすっかり暮れ果てた裏町から私はここ、〈クラブ・シャトウ〉の片隅でビールを飲む。静かな、無関心に近いサーブ。得難い、しかし、貴高い美德だ。

そこで私は、暁の広場で銃殺されたベトコン少年の童顔に思をいたし、モンゴル・ブリアート族の仏僧のことを考え、三本目の煙草に火をつける。そして静かにビールを飲み干し、娘のような彼女たちに話しかける。

(写真はメリケン波止場)



は心臓の鼓動と関係を断つ。

メリケン波止場。天皇の歌碑を背に、安堵した私の心臓は二本目の煙草を要求する。乱れ飛ぶ鷗、行き交うランチ、シャーベットカラーの外国船。マグネチニード8が起した津波もここでは平穏その

いつものように、XYZで外へ出る。脱出するのだ。XYZ、外にはZ時限が無限大に拡がる清澄な空がある。ただ、ただ……、何物かが私を追っかけて来る。そこで私の小さな心臓が虚空へ向って時を刻む。

『冗漫な対話よ、骨を刺す電話のベルよ。ああ、もう赤白の議論は十九世紀の人々へ委ね、ヒステリックなオールドミスとヒューマニティ、これは黙殺するでしょう。人生相談欄の回答者の破恋、ベダンティックな男の浪面とも、もうお別れだ。ズン胸のダクスの権威は抹殺してしまえ。』

それから、詩人の恋も茶番劇といこう。

昨秋、十四年ぶりの秋から秋への東京の、しかし、ビルの谷間から垣間見たタワー。青春の墓石のような、底冷えだけが、いまだに残っている。

身をひるがえし突如、三宮駅へ降りる。

ジャンジャン市場を垂直に通りに抜け、センター街の雑踏へ直角に紛れ込み、ビルの谷間を蛇のよう

# 神戸遊戯誌

19



写真上・神戸ローンテニスクラブコート開き記念撮影

写真下・右から石黒修、沢松順子、沢松和子

戦後の二十年間も阪神間、とくに東神戸から西宮へかけての区間からは優秀な男女プレーヤーが輩出した（以下はいずれも神戸ローンテニス倶楽部の会員および同クラブに関係のあった人々）が、はじめの頃は戦前派の活躍が目立っていた。以前兵庫県庁に勤めていた清水弥次郎（日東鉦、23、26、28年度関西選手権大会シングルルス優勝者、25年度全日本男子選手権ダブルス優勝、なお以下、関西選手権―関西、全日本選手権―全日本、全日本学生選手権―全学生とそれぞれ略称を使う）はじめ田辺

信（慶大、神戸ローンテニスに一時在籍）木村雅信（関学出身、24、25、27、30年関西シングルルス優勝）川副道彦（関学出身、21、22年同上）堀越、鶴原、木村保男などが代表的なメンバーだった。

だが、25年頃から戦後派が進出してきた。古田勤、譲兄弟、田中泰三（以上関学）松岡功（甲南大）などで、古田勤は25年全学生で制覇、譲はのちにテ杯選手となり田中、松岡はそれぞれ、28、30年の全学生に優勝した。松岡は松岡汽船社長の息子で小林一三翁の孫だったが、

硬式テニス ④

青木重雄

その後、父から一生テニスと商売のどちらを選ぶかと迫られて、結局実業界へはいった。30年頃から柴田善久（関学）と石黒修（甲南）の二大プレーヤーが登場した。柴田は神戸高校から関学へ、また、神戸ロンドンテニス倶楽部の常連でもあるきつ粋の神戸っ子だが、とくにダブルスプレーヤーとして抜群で、25年全学生ダブルスで優勝したほか、卒業後は31年から加茂公成が引退したあと宮城淳のパートナーとなり、32、35年二回全日本に優勝した。石黒は途中から慶応へ転校したが、全日本、全学生、関東の三つの選手権をとったほか、加茂なきあとで杯戦にたびたび出場するエース的存在となり、また今年のデ杯選キャプテンに選ばれた。現在彼の妹千重子さんが神戸ロンドンテニス倶楽部にいる。ほかに甲南大には藤井道雄、平野一斉のコンビがいて、石黒が全日本に優勝した36年、同ダブルスに優勝した。藤井は石黒と同様三菱電機へ入社、現在はアメリカへ留学中また平野の父は芦有関発K・K会長の平野齊一郎氏である。同じ頃にデビューして今日まで活躍しているプレーヤーには、渡辺健一（神戸高校から神大へ）渡辺康二（甲南）兄弟、本井満（関学、神戸ロンドンテニス倶楽部会員）岡本好正（関学、神戸ロンドンテニス倶楽部会員）市山哲（神大、現在クラブ籍はないが神戸在住）長崎正雄（甲南から慶応へ）らがいる。渡辺健一は27年に沢松正と組んで全学生に優勝、市山は34年関西、長崎は34年全学生のシングル、本井は37年関西ダブルスにおのおの優勝しており、市山、長崎（元デ杯選手）渡辺康二は本年度デ杯選手に選ばれた。このほか神戸には熱心なテニスマンがかなりいるが、傑出したプレーヤーはあまりいない。

一方女子では、戦前派の戸田定代や辰馬妙子について二十七、八年ごろから村上喜代子（甲南）と松村洋子（神戸女学院）が登場、村上是神戸ロンドンテニス倶楽部のクラブ対抗戦や関西女子選手権に優勝し、松村もダブルスで同選手権をとったが、現在は東京へ移った。三十二、三年頃には神戸に在住の南方郁子、鶴崎珪子（旧姓・

甲南）のコンビが高校時代から活躍、関西女子選手権に一回優勝した。だが、本当に阪神間の女子テニスの実力が全国的に発揮されだしたのは三十五年頃からである。まず、村上喜代子の妹の登美子（聖心女学院から甲南大へ）が、木村洋子（甲南大）と組んで36、37年学生（女子の部）に二年連続制覇をなした。木村はメキシコ帰りのすばらしい腕前の持ち主だった。38年には空野桂子（神戸高校出身）が、小幡陽子（同志社大）と組んで全日本に優勝、戦後ほとんど関東側の加茂幸子と宮城黎子に独断されていた選手権を関西へもたらした。小幡は日本代表としてヨーロッパを転戦して二月十三日帰国した。村上、空野と並んでもう一つのすばらしい、姉妹選手。はかつての名選手沢松豊の娘の順子（松蔭高一年）和子（松蔭中三年）の姉妹である。また沢松正は伯父に当たり、さすがにテニスの名手の血を受けついでいるだけに、進境がすばらしく、昨年七月の関西ジュニアに組んで出場して優勝、また順子は同八月の全日本ジュニアで準優勝して、弱年で全日本選手権の出場資格を握った。和子の方も、この正月の甲子園庭球トーナメントで、昨年度関西女子選手権保持者宮崎選手をみごとくなラケットさばきで破り優勝。関係者をアツといわせた。十四歳にしては抜群の力を秘め、39年度スポーツ記者クラブの推薦をうけた。現在関西きつての名コーチといわれる吉岡利治氏の指導をうけて、加茂、宮崎につぐ日本女子庭球界の王者になる日も間近かいものと注目されている。

戦後日本のテニス界の実力は、世界的レベルからするとたしかに低下していることは事実である。この点について、小泉信三氏は「日本のスポーツの成績不振の事実」は、民主的弛緩から来ていると思われるが、テニスもその例にもれぬ」といっている。このことに一面の理屈があることは否めまいが、量的にみれば（とくに女子の場合）戦前とは比べものならぬほどテニス人口も幅広くなってきている。硬式テニスプレーヤーの名産地・阪神間ゾーンの今後の奮励を大いに望んでおきたい。

# 神戸うまいもん巡礼

No. 31

## 赤尾兜子

### 西洋料理の巻

食味界はわりあい世代の交替がすくないところだが、そうした分野のなかでもやはり時代の流れは如実に生きており、戦後派の経営者が現われてきている。神戸、それもとくに西洋料理の分野は、まだこれから独創を加える人がどんどん出てくるがいいし、料理の品質からいってもその余地があるから、私も若者マスターの出現に大賛成である。

そういう二店をあげる。

一店は生田神社東門筋を北へ上った左側にある「ケーンズ」(生田区下山手通二丁目)である。マスターはオリエンタル・ホテル出身で三十三才の埴岡健君。その名「健」をもらって店の名にし、もう五年近くになる。

マスターのほかに五人のボーイがいて、女性はまったくいない。白いコック帽をつけた男性ばかりのサービスは、かえって清潔な感じがするものだ。カウンターの高椅子にすわると、客とボーイが一对一のかたちになる。メニューは西洋料理の数十種あって、お好みによって注文することをすすめるが、一、二ぬきだと、「エビ、カニ、飯グラタン」(三五〇円)が一般向きにいい。トマトケチャップとあえたご飯を台に、その上に、チーズ粉で焼いたエビとカニのグラタンをのせているが、ややこんがり焼いたグラタンが、ご飯とまじって、個性的にまとまった味。また「子牛のチーズ焼」(三〇〇円)はフレンチドレッシングをかけて食べるが、子牛の品度のいい味に、季節の野菜、トマト、レタスなどがゆったり盛

りつけてあって、値段とひきくらべても十分に満足する。ビーフカツレット(三〇〇円)からスパゲッティ(二〇〇円)とほとんどのメニューが二三百円代でとまっているから、誰もが安心してゆける店でもある。

マスターじしん「ホテルのぜいたくなフルコースでなく、一品を気楽に賞味してもらうムードをつづけたい」というが、さしずめ、この店は、「神戸前の西洋食」の手軽なタッチに触れてみるのにしごくつごうがいい。三宮バー街の中心にあるものの、クロウト筋の客がほとんどないのも特色。

もう一店は、外人間にもその名が知られた「麩鱈皮」(あらがわ、生田区中山手通二丁目)である。炭焼きのあっさり仕立てのビーフステーキが、名実ともに看板。マスターは三十五才の山田二郎君。戦後、駐留軍で皿洗いなどしているうち、持前の眼と器用さで、ひとつやってやろうと、この店をはじめた。といっちはじめは生田神社の東門筋に、小店を持ち、そのきさくな性格といい仕事で客を集め、いまのフインキたよう大店へと出世したのだが、このごろでは、いいステーキ肉といえは、十年前はホテルぐらいしか使わなかったのに、いまは需要がぐんとふえ、過当競争で、ロスの多い肉の上に、値が高く、しかもいいものは入手がむづかしくなった。これからがほんとうの商売でしょう」と、ズバリ裏幕までいってのける。それだけ自信もあるらしい。また料理全般についてもなかなか口がうるさい。





チーズ焼き・エビのオードブル  
写真は「ケインズ」のエビ・カニ飯グラタンと子牛の

じぶんみずから考案した炉で、馬目の炭火をつかって、脂身を切りすてた肉を串ざしにして焼く。味は塩とこし  
ようだけ。じまんの自家製サラダに、日本的に有名なフ  
ロインド・リーブのパンをつけたのが、このステーキ  
(七〇〇円から) マスターのほかにコックさんが二人。  
サービスはコック自身である。  
ステーキの、味のほとんどの勝負は肉でままる。だか  
ら肉のうみぐあいまでよくみて、念入りに掃除、ズバズ  
バロスを出しても平気な顔をしている。  
客は、阪神間在住の外人はじめ、外人クラブ、KRC  
のメンバー、それに定期的に来日するバイヤー、船舶関



写真は川自慢の炉で焼く神戸肉のステーキ

係者、パイロットなど外人六割に、日本人四割というところ。鳥料理、魚料理もできるので、その方の腕をみてるのも一興だろう。  
昨年の東京オリンピックに、マスターの山田君は、ノルウェー領事に依頼されて、約一カ月店をあげ、ノルウェーヨットチームの万般の世話に上京していた。東京での食事のまずさに、さんさん閉口して神戸へ帰ってきたようだが、近く生田神社東門筋の旧店も開いて、ここでは割安のステーキをはじめというから、楽しみがまたひとつふえそうである。

# 記者会見紳士

文・竹田洋太郎  
え・鴨居玲

紳士であるあなたは、すでに「記者」なる人物を見たことがあるだろう。あなたのところへ、経済の見通しをたずねにきたかもしれない、あなたがさるバーで飲んでいるとき、隣りにぎやかに飲んでいたかもしれない。そのとき記者は、あなたに話しかけていなくても、あなたの言葉に注意深く耳を傾け、人物を観察しているのである。恐いことではないか。

しかも、かつて「記者」といえば新聞記者のことであった。ところが、近ごろはさまざまの大衆伝達媒体が発達して、放送記者から週刊誌記者、雑誌記者から特派記者（週刊誌が使う社員でない記者）一日記者もあれば、万年記者もある。その担当部門は多岐に分れ、事件記者から競馬記者、海運記者からヌード記者（記者がヌードになるのではない）まであって、さながらゴキブリのように多い。これらを一括して最近「マスコミ屋さん」というそうである。

この記者諸公にどう対処するかは、紳士ならずとも、現代人にとって重大な問題になってきたのである。「地震マスコミ火事女房」が恐いものの代表とされる時代である。

そして彼らは、中共向けプラント輸出に対する意見、芸者の社会的効用、期待される人間像、あなたのゴルフのハンディ等々、なんでもたずねる。また、ときにあなたは、わが社の新製品が画期的なものであることや、今回増資に踏み切った理由や、政府の対策のなまぬるさ等を記者諸公に発表しなければならぬ。それらの場合

のいくつかの原則を挙げておきたい。

まず、記者もしくは記者団から説明を受けたとき、紳士としては単純明快に答えてはならない。複雑な問題については複雑に答える。また、記者に決してウソをついてはならないが、ほんとのことをいうべきでもない。ただし最後に「君はどう思う」といつてはいけない。すると大抵の場合、こちらの意見よりも、記者の意見が、あなたの意見として新聞等にのることが多く、あとで「××発言事件」に発展するおそれなしとしない。

もしあなたの発言で結論が出されていないと、A紙はAという結論をつけ、B紙はBという結論を加えることがある。新聞によって同一発言を全然反対の意味に書いたりするときは、実に気持ちのいいもので、その両紙を切り取って保存しておくに値するだろう。

さらに複雑な質問を受けたときは、むしろ答は簡単明瞭に「うん、それはいま勉強中だ」でよろしい。なかには、かつての日銀総裁一万田氏のように「そういう質問をするようじゃ、君、勉強が足らんね。こんどまでによく勉強しておきたまえ」などいう人もあるが、これは法王といわれた氏にしていえることで、一般の紳士は試みるべきでない。むしろ謙虚に、いろいろの立場からいろいろべて、果してなにがなにやらわからんように答えることをおすすすめする。

ただし、新製品の発表、増資の発表等、こちらがニュースとして掲載を希望する問題については、直截に、そのまま記事になるように、堂々と記者の質問に答えるべ

## 「別冊紳士入門図解」



今月は我ながら一寸高度な挿絵を描いてしまったが、理解していただけるだろうか。この挿絵を描いてフト思い出したが、三宮にとても偉い文化人やお坊さんのよく集るうなぎ屋さんがある。そこの御主人がまた絵を描いたりなかなか面白い人で、その店の二階の座敷に「本来無一物」と書かれた軸がかかっている。素晴らしい書だと思ふ。ところで洋太郎師匠の高弟である私は今度その店でたらふく飲んだり喰ったりした後、その軸をばつと店の主人に見せて店を出てやろうとひそかに楽しみにしている次第である。

「酒徒番附」で敢斗賞をいただいたに於ては、ちと、はしたないかな——。

レイ・カモキ

きである。最近パブリシティ（企業等がマスメディアにニュースを提供する活動）の必要が叫ばれているが、これはこのごろはじまったものではなく、昔から、すぐれた紳士は、立派なパブリシティ・マンであった。記者諸公から本名でなく、愛称をもって呼ばれている財界人はみなそうであろう。

要するに記者との会見においては、誠心誠意、高度の紳士通を発揮すればよいのである。たとえば、記者会見においては、充分時間をかけ懇切丁寧に、納得のいったように話し、さて記者が記者室に、あるいは社に帰り、鉛筆をとったときに、はたして何から書いていいやらわからず、思わず筆を投げたくなる、と思わせたら、堂に入ったものということができる。現佐藤内閣では橋本官房長官がしばしば食言、訂正などを行なっているが、実は

これは官房長官が記者の質問に対し明快に答えるからである。かつて黒金長官の時代には、こういうことはあまりなかった。これは含み声のうえ、語尾が不明瞭で、しかも問題を広くとりあげ、深く掘り下げ、結局なんともわからぬように語っていたからであろう。

こういった企業、団体等関係で記者と会見するのでなく、一身上の問題、たとえば、あなたに七人の子供があるが妻に死に別れ、後妻として直木賞作家の女性をめとるといった場合は極めて慎重な態度が必要である。そんな際には筆者が個人的に指導してもよいから月刊「神戸っ子」編集部に問い合わせられたい。ただし、あなたが有名な某女優と恋愛関係にはいり、週刊誌がかぎつてあなたに面会を求めたときは、勝手にやっていたきたい。相談にのるのもばからしいからである。